

# 食リ飼料化で新会社

## 日本フードエコロジーセンター

### 小田急ビルサービスから分社

#### “J・FEC”開業

る。施設に搬入した食品残さを独自の技術で液状飼料化し、関東近郊を中心とする10件以上の契約養豚農場に供給するほか、生産された豚肉の一部を、大手スーパーなどがブランド肉として販売するまでをサポートする体制を取っている。

高橋社長は、「これまでの取り組みをステップアップしながら、経営効率化と事業の拡大を積極的に進めていきたい」と抱負を語っている。

小田急ビルサービス(東京・渋谷)の環境事業部として、食品廃棄物の飼料化事業を手掛けてきた小田急フードエコロジーセンター(相模原市)が10月1日付で分社化し、「株式会社日本フードエコロジーセンター」(同市、☎042・777・6316)として新たに開業した。代表取締役

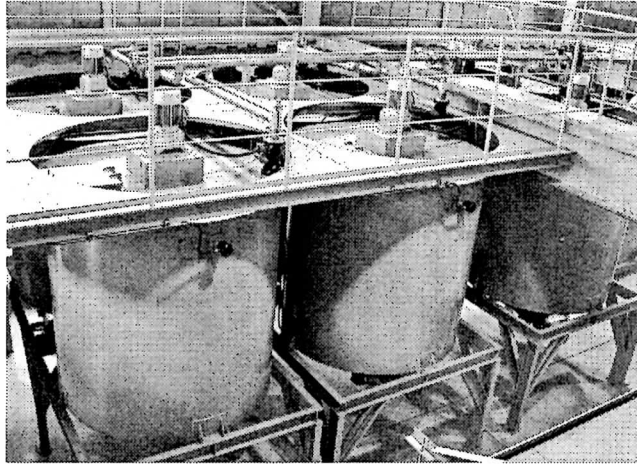
社長には、旧・エコロジーセンターで顧問を務めた高橋巧一氏が就任。既存の顧客を引き継ぎながら、事業拡大を目指す。

新会社は略称を「J・FEC(ジェイ・フェック)」と呼ぶ。2005年から相模原市内で稼働させてきた食品残さの液状飼料化施設を継承し、既に1日か

ら操業している。

施設は1日当たり39トンの処理能力を持ち、受け入れ品目は、事業系一廃の生ごみと、産廃の動植物性残さ・廃酸・廃アルカリ・汚泥(食品に限る)。分社化

に伴い、一廃・産廃の処分業許可を改めて取得し、登録再生利用事業者の認定も受けた。分社化前からの顧客である排出事業所は、小田急グループ内外を含め170以上に達す



リキッド発酵飼料の生産設備